



施政方針全文

「生きたい、行きたい、活きたい南あわじに」の実現



議場で施政方針を述べる守本市長

2月22日に招集された第82回市議会定例会において、守本市長が市政運営の基本方針や主要施策をまとめた施政方針を述べました。その概要をお知らせします。なお、施政方針の全文と予算の詳細は市ホームページからご覧になれます。(予算と主要事業の記事は4〜7頁)

【序論】

私が市長に就任し、早2年が経過しました。この間、市民の皆さまからの声を聞きつつ、行政の各所で見直しや改善を行い、また、新規施策を進めてまいりました。これからの大きな変革期の方向性を見据え、対話と行動を通じ、市民にとって「住み心地の良いまち」「訪れる人にとって「二期一会の楽しみがあるまち」、そして未来を担う若者にとって「挑戦しがい」と子育ての環境が整ったまち」「すなわち「生きたい、行きたい、活きたい南あわじに」を実現すべく尽力していく所存であります。

施政方針

【五つの行動】

①超高齢化社会の克服
超高齢化社会を克服するための中核

淡路ファームパーク・イングランドの丘 4月1日から市民入園無料に

淡路ファームパーク・イングランドの丘では4月1日から、市内在住の人を対象に、入園料を無料にする新入園サービスを次のとおり始めます。

- ▽入園料 無料
- ▽対象者 市内在住の人
- ▽手続き 入園ゲートで住所等が分かる①または②の身分証明書を提示。①官公署の発行した顔写真入りの書類②本人に交付された※書類で本人名義のもの③2点
- ※学生証、並びに健康保険証など法令に基づいて発行された書類

※同事務所 ☎43・2626

市民サポーター制度の廃止

新入園サービスに伴い、市民サポーター制度は、平成32年3月31日をもって廃止します。

新規申込みの受付は平成31年3月31日で終了。第6期サポーター(有効期限平成30年3月31日)の更新手



淡路ファームパーク・イングランドの丘を楽しむ優文保育園児

続きは平成32年3月31日まで受付します。

発行済みパスポートをお持ちの人は、8月31日までにパスポートを入園窓口へ返却すれば、園内利用100円割引券(当日限り有効)をお渡しします。

☎43・5221

は「仕事・社会貢献継続による健康寿命の伸長」です。少子高齢化の進展とともに人口減少が加速しているなか、老いも若きも、障害を持つ方も、すべての人が役割を持って活躍できる社会の構築が国全体の大きな課題となっておりますが、本市は、その流れに一步先んじて、生涯活躍社会に向けた具体的な行動を開始しています。就任当初から進めている「高齢者等元気活躍推進事業」は、シニア世代等の活躍の場を創出することで、健康長寿の地域づくりや地域の人手不足の解消を進め、加えて地域の経済循環の拡大を目指すものです。

また、市民の健康づくり、地域包括ケアシステムの構築・高度化、自殺対策、障害者の包摂社会への対策など、総合的な施策展開により、すべての人が役割を持って活躍でき、困ったときに共助・公助が円滑に機能する地域社会の構築を進め、超高齢化社会の克服に取り組みます。

②子育て環境の向上と教育の充実

私は、子育て・教育環境の充実は、若者に選ばれるまちになるための最大の要素であると考えています。

本市は、これまで積み上げてきた切れ目のない子育て支援策をさらに高度化し、「子どもたちが地域の人々に見守られて過ごす場の拡充」、「子育て世代の総合的な支援体制の充実」および「学校教育の加速的な充実と高度化による『学ぶ楽しさ』の地域づくり」を打ち立て、実行することにより、社会の動向の更に一歩前を走りたいと思います。

淡路島サクラマスが全島デビュー 40店舗76メニューを提供



淡路島サクラマスを使ったメニューを披露する料理人ら

福良湾で養殖されている「淡路島サクラマス」を使ったオリジナル料理の提供が解禁され、2月28日に市内のホテルでお披露目会が開催されました。

新たなご当地グルメとして、オリジナル料理の開発が始まって3年目。昨年までは、南あわじ市内の店舗でのみ提供されていましたが、今年から淡路島全域に拡大し、40店舗で76メ



淡路島サクラマス 特設サイト 二次元コード

プログラミング体験講座 榎列小学校児童がロボットを操る



ドローンを操作する児童

2020年度から小学校で行われるプログラミング教育。南あわじ市では、子どもたちにプログラミングに興味を持ってもらおうと3月3日、榎列小学校でロボットとドローンを使った「ロボットプログラミング体験講座」を開催しました。

同講座には、榎列小学校の児童約20人が参加。与えられたミッション通り



プログラミングしたロボットを動かす児童

③地域の資源を活かした地元産業の活性化
淡路島の産業発展は、豊かな観光資源を最大限に活かし、いかに交流人口を拡大するかにかかっています。淡路島三市が連携し、食と自然と歴史が揃った島全体の魅力を絶え間なく発信することによって多くの人が訪れ、活気あふれる淡路島の実現が可能になるのです。こうした考えに基づき、産業の活性化を進めてまいります。

④安心・安全のまちづくり

自然災害の頻発は、これまでの経験や備えでは通用しないレベルとなっております。国・県、消防関係機関と密接に連携して災害に強いまちづくりを着実に進めるとともに、防災訓練等を通じて市民の防災力向上を図ります。また、防犯灯の設置等による犯罪・交通事故の防止、安定的な水の供給体制の堅持、下水道等の生活環境の整備、空き家の除却および利活用を支援します。

⑤「対話と行動の行政」の実現によるまちづくり

行政は市民が行動しやすいように方向づけをし、サポートしていく立場です。私自身が直接市民の皆さまと顔を合わせて対話し、こうした考えを説明するとともに、市民の皆さまの行動に向けた発意をすくいあげる場を持ちたいと思います。また、職員が外部との関係強化に注力できるよう仕事の仕方を変え、国や県との人事交流を引き続き行い機能を強化し、市役所全体で対話と行動の行政の実現を図ってまいります。

ロボットが動くようにパソコンでプログラミングをしたほか、ドローンを輪の中に通したり、指定の場所に着地させたりする操作も行いました。